

インフォメーション・コーナー

会 告

○2023年度農業農村工学会賞の決定	66
○研究部会長の交代	66
○農業農村工学サマーセミナー 2023 参加者募集!	66
○2024年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	67
○2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み(再) 申込締切 6月30日	67
○今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2023”(再) 応募締切 7月31日	68
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」の発刊	69
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	69
○技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正	70
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	70
○技術提案書の評価基準で技術士 CPD が評価されるようになりました	70
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	70
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	71
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	71
○2024年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	72
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局	73
○第80回京都支部研究発表会の開催(第2報) 発表申込締切 6月30日	74
○混相流シンポジウム2023の開催 8月24~26日開催	75
○公開シンポジウム「食・土・肥料—SDGs 達成のための基礎科学として」の開催 7月29日開催	76
農業農村工学会論文集 内容紹介	77
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	78
学会記事	79

第91巻第7号予定

展望: 四国の農業農村整備の課題および展開方向と大学の役割: 大上博基

小特集: 四国の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み

報文: 四国地域における農業農村整備が果たすべき使命について: 都築慶剛

報文: 愛媛県における樹園地整備の取組み: 宮田正孝

報文: 香川の農業水利施設の現状と新たな取組み: 井川一郎

報文: とくしまの「農業(いのち)」と「農村(くらし)」を未来につなぐ農業農村整備事業の推進: 太田隆久

報文: 高知県の農業農村整備の現在と未来に向けた取組み: 大利 尚

技術リポート

北海道支部: 植生マットを用いた寒冷少雪地域の草本植物生育と経年評価: 小林健嗣ほか

東北支部: 酸性硫酸塩土壌における農地整備の取組み事例: 引地達也ほか

関東支部: 茨城中部地区における酸性硫酸塩土壌の発生とその対策: 百々宏晶

京都支部: ため池改修工事における柱状改良工の施工事例: 高橋 颯ほか

中国四国支部: 透水性改良体を用いたため池の安定化工法の開発: 西尾竜文ほか

九州沖縄支部: ドローン搭載型レーザースキャナーを利用した施工管理: 松本 淳

私のビジョン: これまでのコトと、少しでもこれからのコト: 倉澤智樹

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととなります。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2023年8月 29日～9月1日	大会運営委員会	2023年度(第72回)農業農村 工学会大会講演会 Ⓟ	—	松山市	90巻12号, 91 巻1, 3, 5号
2023年8月 29日～9月1日	農業農村工学サマーセ ミナー2023実行委員 会	農業農村工学サマーセミナー2023	—	松山市	91巻6号
2023年10月 26, 27日	九州沖縄支部	令和5年度(第104回)支部大会 Ⓟ	—	那覇市	91巻4号
2023年11月 28, 29日	京都支部	第80回研究発表会 Ⓟ	—	津市	91巻4, 6号

2023年度農業農村工学会賞の決定

2023年度農業農村工学会賞は、2023年5月11日(木)開催の第274回理事会において、学術賞1件、研究奨励賞3件、技術奨励賞1件、優秀論文賞3件、優秀報文賞4件、優秀技術賞2件、優秀技術リポート賞6件、著作賞3件、環境賞1件、地域貢献賞2件、国際貢献賞2件、功労賞1件、上野賞2件、

沢田賞1件が、決定いたしました。

なお、詳細は学会ホームページおよび本誌第7号巻頭2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

研究部会長の交代

2023年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。
記

土壌物理研究部会

新部会長 斎藤 広隆
前部会長 藤巻 晴行

農業農村工学サマーセミナー2023参加者募集!

農業農村工学サマーセミナーは、農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー2023の開催を企画しています。開催日程、内容等が決まり次第、サマーセミナーのホームページや本誌等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論をしてみたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけれど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

- 主催 農業農村工学サマーセミナー2023実行委員会
- 日時 未定(2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会 開催期間中)
- 対象 学部学生, 大学院生, 若手社会人, 若手研究者
- 参加費 未定

5. 企画内容 未定

【過去の活動内容例】

2022年度(ハイブリッド開催): グループディスカッション2題(「専門分野以外のNN分野を知ろう」, 「サマーセミナーのロゴを作ろう」), 親睦会, 現地研修会(金沢市)など

2021年度(オンライン開催): グループディスカッション2題(「災害・防災に対して農業農村工学ができること」, 「サマーセミナーで動画を作るとしたら?」), レクリエーションなど

6. お問い合わせ

E-mail: n.n.summer.seminar@gmail.com

URL: <https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>



2024 年度農業農村工学会賞候補の推薦

2024 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、 締切は、2023 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。 は学会ホームページをご参照ください。

2024 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績
賞の対象期間	2018 年 10 月から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 5 年以内に発表されたものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2020 年 10 月から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表されたものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2020 年 10 月から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。ただし、その 3 年以内に発表されたものと同じの課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2022 年 10 月から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。	2022 年 10 月から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。	2021 年 10 月から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。	2018 年 10 月から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2013 年 10 月 から 2023 年 9 月までに発表されたものとする。	2018 年 10 月 から 2023 年 9 月までにを行った活動とする。	2021 年 10 月 から 2023 年 9 月までにを行った活動とする。	2018 年 10 月 から 2023 年 9 月までにを行った活動とする。	2018 年 10 月 から 2023 年 9 月までにを行ったものとする。	2018 年 10 月 から 2023 年 9 月までにを行ったものとする。	2021 年 10 月 から 2023 年 9 月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2023 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人	
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2024 年度（第 73 回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2023 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

2023 年度（第 72 回）農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み（再）

2023 年 8 月 29 日（火）、30 日（水）、8 月 31 日（木）の 3 日間、愛媛大学城北キャンパス（愛媛県松山市）で開催されます 2023 年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行うとともに大会講演会概要集への広告掲載を行います。企業展示もしくは広告掲載を希望される企業は、下記要領によりお申し込みください。

1. 企業展示

愛媛大学城北キャンパス 共通教育棟（予定）

※具体的な場所や条件はお問い合わせください。

なお、展示スペースの関係上、申込み先着 20 社までとさせていただきます。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載 (A4判モノクロ印刷)

※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- | | |
|--------------------|--------------|
| ①広告1ページ | 60,000円(税込) |
| ②広告1/2ページ | 30,000円(税込) |
| ③企業展示(屋内) | 80,000円(税込) |
| ④広告1ページ+企業展示(屋内) | 120,000円(税込) |
| ⑤広告1/2ページ+企業展示(屋内) | 100,000円(税込) |

4. 申込方法

(1) 申込用紙の送付

所定の申込用紙(農業農村工学会大会講演会のページ(<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>))に掲載を、また、企業展示の場合は、(2)に示す展示概要(任意様式)を大会事務局に送付(E-mail添付)。その後の手順は以下のとおりです。

- a (大会事務局) 申込み受付後、貴社へ連絡
 b (貴社) 広告原稿の送付(広告の場合)、資料用原稿の送付(企業展示の場合)
 c (大会事務局) 請求書の発送、大会講演会概要集の発送(広告の場合)、企業展示資料の発送(企業展示の場合)

d (貴社) 振込み

e (大会事務局) 領収書発送

(2) 展示概要

展示する内容および必要物品等(要電源、机、イス等)、希望事項等を任意様式で作成・提出してください。基準面積は幅1.8m×奥行き1.5m(屋内)です。

(3) 申込期限 2023年6月30日(金)まで

(4) 振込先

・金融機関：伊予銀行

・店名：東野支店

・店番：132

・預金種目：普通預金

・口座番号：1464479

・口座名義：2023年度農業農村工学会大会講演会実行委員会

事務局長 久米崇

(5) 申込み・問合せ先

2023年度農業農村工学会大会事務局 久米 崇

〒790-8566 愛媛県松山市榑味3-5-7

愛媛大学大学院農学研究科

TEL：089-946-9858

E-mail：kume@ehime-u.ac.jp

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2023”(再)

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2023年7月31日(月)17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2023年度のテーマ 「こんなにも！農業農村」
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2023, こりゃ映像, 農業農村)を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別,

所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

＜参考＞こりゃ映像2022 結果

最優秀賞：水の守り人 新米(ルーキー) 参上～水利用のしくみを知る～

野洲川土地改良区 鍋家可捺
内外エンジニアリング(株) 藤原千里

<https://youtu.be/vHusUcftBs>

優秀賞：牧草地の雑草駆除の開発—薬剤使用量8割減をめざして—

東京農業大学生物産業学部 松村寛一郎

https://www.youtube.com/watch?v=oC_mVox6LqQ

優秀賞：交流からみた農業農村～とやま婦農塾～

富山県農林水産部農村振興課 竹口 輝

<https://youtu.be/sDIBY1TLPgg>

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」の発刊

令和4年5月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」（農林水産省農村振興局編集）を2023年3月10日に発刊いたしました。

＜制定の趣旨より抜粋＞

…（中略）…、現行基準が制定された平成16年3月から十数年が経過した。その間に蓄積された計画設計技術の知見、新たに開発された調査手法、地すべり防止区域及び地すべり防止施設の管理を行う重要性の増大等による農地地すべりを取り巻く社会情勢の変化等を反映させる必要が出てきた。

これらのことを踏まえ、概成に関する項目を新たに設けることとともに、所要の改定を行い、一層の効率的かつ効果的な事業実施に資するものである。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,180円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 561ページ

発行日：2023年3月10日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2023年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ(1)として扱います。）

(2) 条件を付した寄付

選定条件【

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進

・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進

・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店
 普通預金 No.1569058
 口座名 (社)農業農村工学会学術基金
 郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金
公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。

技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正

農業農村工学会技術者継続教育機構では、CPD記録の不正な申請行為等を抑止するため業務運営要領等の一部改正し、2023年4月1日から施行いたします。

1. 改正の理由

技術者継続教育機構では、技術者は倫理観を備えているとの前提でルールを構築していたため、現行規程の下では登録の抹消以外に不正行為に対応する内容を定めていませんでした。しかしながら、CPD取得証明の持つ社会的意義の重大化に伴い、CPD制度の運営機関の責任として不正行為を抑止する仕組みが必要であることから、「技術者継続教育機構業務運営要領」および「技術者継続教育機構業務運営細則」に不正行為の定義を明示しそれらを行った登録者に課すペナルティを定めることにより、不正行為の抑止を図るとともに発生した不正行為に迅速に対処することとしました。

2. 改正の範囲

- (1) 技術者継続教育機構業務運営要領の一部改正
- (2) 技術者継続教育機構業務運営細則の一部改正

3. 施行日 2023年4月1日

4. ガイドラインの制定

新たに定められた制限事項はありません。不正行為の範囲を明確にするため「登録者の不正行為に関する判定とペナルティのガイドライン」を定めました。また、ガイドブックなどにペナルティの対象となる事案を例示することで、登録者の理解を深めます。

詳細は技術者継続教育機構ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご参照ください。

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもあるCPD個人登録者が在宅のままCPD単位が取得できることを目的に「CPD通信教育」を実施しています。

2021年9月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

技術提案書の評価基準で技術士CPDが評価されるようになりました

農林水産省では、建設コンサルタント等の選定・特定事務手続き上の細部運用を改正（令和5年4月3日付）し、予定管理技術者の業務執行技術力の評価項目で、農業農村工学会技術者継続教育機構において取得したCPDにより「技術士（CPD認定）」に認定されている場合に、評価点1点が加算されるこ

ととなりました。

「技術士（CPD認定）」の認定要件については、日本技術士会ホームページ (https://www.engineer.or.jp/c_topics/008/008035.html) をご確認ください。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で

送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb

利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌6号掲載の問題は7月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録 (正解数 6 問以下の場合 CPD 単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/nnj/202101/yougojiten-web.html>) で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者 (大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む) の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して (学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨 (A4 判、1,500 字程度、様式自由) を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 91, 92 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字程度)
第 91 巻第 7 号 大会特集号 (中国四国支部)	公募なし
8 号 —	公募なし
9 号 農地の利用について考える (仮)	終了
10 号 技術者のスキルアップへの取組み (仮)	終了
11 号 農業水利施設の管理、保全、更新に係る技術的課題と課題解決への取組み (仮)	終了
12 号 —	公募なし
第 92 巻第 1 号 —	公募なし
2 号 防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決方策 (仮)	8 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

第92巻第2号「防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決策」(仮)

全国には、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法(令和2年10月施行)」(以下、「ため池工事特措法」という)に基づき都道府県知事が指定した防災重点農業用ため池が、約5万4千カ所存在(令和3年7月末時点)しており、防災工事等を令和12年度までに完了することを目指し、劣化状況の調査や防災工事が進められています。また、防災工事等の推進に当たっては、ため池工事特措法で定める「防災重点農業用ため池に係る防災工事等基本指針」において、農業用ため池が有する生物の多様性の確保をはじめとする自然環境の保全等の多面的な機能にも配慮することが重要と定められており、環境との調和に配慮した事業が求められています。

したがって、農業農村工学分野においても、限られた期間の中で膨大なため池の整備について、優先度の高い農業用ため池の選定、堤体や洪水吐等の劣化状況調査等、事前の環境調査、環境配慮対策をどう考えていくのが課題といえます。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

ため池特措法の施行から2年以上が経過した現状において、多数の農業用ため池の調査および防災工事を短期間で実施することが求められていること、営農者の減少により実質的に取水源として使用されていないため池の取扱い、また、利用実態のないまま放置されている小規模ため池であっても、防災上の視点にとどまらず、希少種の生息状況の調査や生物多様性保全に着目した整備が必要等の多くの課題が指摘されています。

そこで、本小特集では、地方公共団体が実施する多数の防災重点農業用ため池を対象とした防災工事等の計画手法の知見として、①多数のため池を対象とした、ため池の優位付けや対策工法の新技術の事例、②農業用水としての利用実態がないため池の廃止工事や廃止工事を行わず残置した際の関係者間の調整事例、③ため池の防災・廃止工事を計画する上で、事業計画段階での環境調査と環境配慮方策の考え方、その工事中と工事完了後の調査事例等、幅広く報文を募集します。

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

2024年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2024年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など:現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

の美など」

2. 対象巻号 学会誌第92巻(2024年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含むA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2023年6月30日

夏季 2023年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第92巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作

品は2024年度大会講演会会場でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History (表紙写真由来)」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読

みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局**

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称: PAWE)を発行しています。なお、Paddy and Water Environment誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンsoonアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2021年のインパクトファクター(IF)は1.554と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)

⑩ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)

⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

• **Editor-in-Chief**

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

• **Associate Editors-in-Chief**

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

• **Editors** 13カ国から20名

• **Editorial Advisors** 30名

• **Chief Managing Editor**

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

• **Managing Editors**

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science,

Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk
National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS),
Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC
No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan,

ROC

TEL : +886-2-3366-3476

FAX : +886-2-2363-5854

E-mail : chfan@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第 80 回京都支部研究発表会の開催 (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 2023年11月28日(火) 10:00~17:00
(受付開始 9:00~)
- (2) 会場 三重県総合文化センター
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234
TEL : 059-233-1111
- (3) 会場までのアクセス
(近鉄名古屋線・JR 紀勢本線・伊勢鉄道) 津駅より
・バス 約5分 津駅西口前ロータリーにて「総合文化センター行き・夢が丘団地行き(系統番号89)」に乗り、「総合文化センター前・総合文化センター」バス停で下車すぐ
・徒歩 約24分 (1.8 km)

2. 情報交換会

- (1) 日時 2023年11月28日(火) 18:00~20:00
- (2) 会場 Kitchen Sangria (キッチン サングリア)
〒514-0003 三重県津市桜橋 2-142
三重教育文化会館別館 1F
TEL : 059-228-2221
- (3) 会場までのアクセス
津駅東口より
・徒歩 約6分 (450 m)

3. 現地研修会

- (1) 日時 2023年11月29日(水)
- (2) 内容 現地研修会は三重県内の農業水利施設や土地改良事業工事現場の視察等を予定しています。コース等、詳細が決まり次第、京都支部ホームページ (<http://jsidre.or.jp/kyoto/>) にてお知らせいたします。

4. 研究発表申込み

発表希望者は投稿原稿に先立ち、以下の情報を簡条書きにした電子メールを2023年6月末日までに、大阪公立大・中桐にご送付ください。なお、件名を「発表申込み」としてください。

①表題 (仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門 (水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。

〒599-8531 大阪府堺市中央区学園町 1-1
大阪公立大学大学院農学研究科 中桐貴生
E-mail : nakagiri@omu.ac.jp
TEL : 072-254-9647

5. 投稿原稿申込み

- (1) 原稿投稿先および期限

研究発表の申込みをされた方は、2023年7月末日までに、投稿要領に基づき作成した原稿（PDFとMS Wordの両方）と投稿票（MS Excel）を、電子メールで大阪公立大学・中桐までご送信ください。投稿票は、京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）内の「第80回京都支部研究発表会の開催について」よりダウンロードしてください。

※投稿原稿申込みは電子投稿のみで結構です。発表申込み・投稿申込み後には事務局より受信確認メールを返信いたします。

(2) 投稿要領

- ・発表者は学会員に限りませんが、連名者に少なくとも1名は学会員が含まれることとします。
- ・発表者は、研究発表会への参加申込みが別途必要ですのでご注意ください。
- ・投稿要領および原稿の書式については、京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）内の「発表申込み票（投稿票）と投稿要領」をご参照ください。
- ・原稿の枚数は図面を含めて2枚とします。
- ・発表時間は12分（質疑応答の対応は今後決定）です。
- ・原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものをフォントを埋め込んだPDF形式のファイルで提出してください。PDFファイルにおけるフォントの埋込み方法については、支部ホームページに掲載の投稿要領をご参照ください。
- ・発表の補助道具として、パソコン（OSはWindows10、ソフトはPowerPoint）を準備いたしますので、発表用のデータをUSBメモリーでご持参の上、会場にてコピーをお願いします。

6. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、旅行代理店等を通じて行う予定です。京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）内の「第80回 農業農村工学会京都支部研究発表会の開催について」にアクセスし、「参加申込み」のリンク先からお申込みください。

(2) 申込期限 2023年8月31日（木）

(3) 参加費等 研究発表会（会員）3,000円

研究発表会（非会員）4,500円

情報交換会 5,000円

現地研修会 4,500円（参加費3,000円、
昼食代1,500円）*

※学生については、現地研修会の参加費は無料としますが、昼食代はお支払いいただきます。

(ア) 昼食

- ・研究発表会の会場周辺では飲食店が少ないため、弁当を1,000円/個（税込）で事前予約にて受け付けます。ご希望の方は参加申込み時に併せてお申込みください。
- ・現地研修会では、昼食をご用意しますが、参加費と合わせて昼食代もお支払いいただきます。

(イ) 参加費等の納入

- ・申込み後、京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）内の案内に従ってお振り込みください。振込手数料はご自身でご負担ください。なお、納入された参加費につきましては、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊の斡旋

宿泊の斡旋は旅行代理店を通じて行います。ご希望の方は、参加申込み時に、併せてお申込みください。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合もございますのでご了承ください。

(5) 問合せ先

「参加申込み」に関する問合せ先につきましては、京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）をご覧ください。

7. 開催地事務局

三重県農林水産部農業基盤整備課

農業基盤企画班 牛草・久保

TEL：059-224-2556 FAX：059-224-3153

E-mail：ushigs00@pref.mie.lg.jp（牛草）

kubon01@pref.mie.lg.jp（久保）

8. その他

新型コロナウイルス感染状況等により、予定変更を行う場合がありますので、ご了承ください。

混相流シンポジウム 2023 の開催

1. 主 催 日本混相流学会

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 日 時 2023年8月24日（木）～26日（土）

3. 場 所 北海道大学札幌キャンパス工学部

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目

4. 問合せ先

混相流シンポジウム 2023 実行委員会

E-mail：mfsymp2023@jsmf.gr.jp

5. その他

詳しくは、混相流シンポジウム 2023 のホームページ（<http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2023/>）をご覧ください。

公開シンポジウム「食・土・肥料—SDGs 達成のための基礎科学として」の開催

- | | |
|--|--|
| <p>1. 主催 日本学術会議農学委員会土壌科学分科会, 農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会, 日本土壌肥料学会</p> <p>後援 農業農村工学会ほか</p> <p>2. 日時 2023年7月29日(土) 10:00~16:15</p> <p>3. 会場 東京農業大学世田谷キャンパス</p> | <p>〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
(ハイブリッド開催)</p> <p>4. その他
詳しくは, (一社)日本土壌肥料学会のホームページ (https://jssspn.jp/info/secretariat/sdgs2023729.html) をご覧ください。</p> |
|--|--|

オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は, より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため, 平成27年4月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→電子投稿・査読システムの導入により, 平均 4カ月 で審査終了!

→審査終了後, 順次 J-STAGE に掲載!

→論文集購読者は, オンライン登載直後より閲覧可能,

冊子体も配布, 掲載料も低価格!

→投稿資格を緩和, 非会員も条件により投稿可能に!